

イラン

2022年11月9日

海外調査部・テヘラン事務所

2021年のイラン経済は、米国による経済制裁や新型コロナウイルス感染症拡大の影響を引き続き受けながらも、実質GDP成長率は4.0%と、前年に続きプラス成長となった。一方で、国内経済は物価上昇や高失業率など厳しい状態が続いている。2021年度の貿易額は輸出入（非石油部門）ともに前年度比35%以上の伸びとなった。日本との貿易額は、日本からイランへの輸出は多くの品目で減少し、12.4%減となった。一方、前年に前年比97.1%減の大幅な減少となっていた輸入は、13.5%増となったが、金額は3,800万ドルにとどまった。

■前年に続きプラス成長も、通貨安・インフレは進行

イラン経済は、2018年以降の米国による経済制裁と新型コロナの影響を引き続き受けながらも、2021年の実質GDP成長率をIMFは4.0%、世界銀行は4.1%と発表した。世界銀行は、新型コロナによって縮小した経済活動が徐々に再開したことに伴う石油部門とサービス産業の回復が、2年連続のプラス成長を牽引したとしている。一方、水と電力などエネルギー不足が農業と工業部門の縮小につながっているとした。

国内経済は、混乱が続いている。2021年4月からは、核合意「包括的共同行動計画（JCPOA）」の立て直しや、米国による対イラン経済制裁の解除などを話し合う合同委員会などが断続的に開催されているが、現時点で交渉は進展していない。先行きの不透明感から、2021年後半～2022年5月ごろの為替の市場レートは1ドル＝25万～30万リアルの間で乱高下した。国際原子力機関（IAEA）がイラン非難決議案を採択した2022年6月半ばには、1ドル＝33万リアルとさらに通貨安が進み、1ドル＝4万2,000リアルの公定レートとの乖離が7.9倍になり、その後も1ドル＝29万～32万リアルで取引された。なお、2022年8月末時点の為替レートは1ドル＝約30万リアルとなっている。

インフレも進行した。イラン統計センターが発表した2021年度（2021年3月21日～2022年3月20日）の消費者物価上昇率は、通年で40.2%となり、前年度（2020年3月20日～2021年3月20日）の36.4%を上回った。2021年度は特に前半の上昇率が高く、前年同月比で40%を超える月が続いていたが、下半期は30%台の上昇率となった。しかし、2022年度（2022年3月21日～）に入ると再び大きく上昇し、5月22日～6月21日の上昇率は総合が52.5%、食品・飲料は82.6%、6月22日～7月22日は総合が54.0%、食品・飲料は87.0%となっており、食品・飲料の値上がり特に激しくなっている。

主要産業である自動車は、国際自動車工業連合会（OICA）によると2021年のイランの自動車生産台数は89万4,298台となり、前年比1.5%の微増だった。前年は世界的な新型コロナ拡大や米国による経済制裁下にもかかわらず7.3%増となったのに比べて、2021年の増加率は鈍化しており、生産台数は経済制裁前の水準には戻っていない。

IMFは、イランの2021年の失業率を前年比0.2ポイント増の9.8%、2022年は10.2%と推計（2022年4月時点）している。世界銀行も、新型コロナによって失われた雇用は十分に回復していないとしている。

■輸出入額ともに前年比35%以上の増加

イラン税関の発表によれば、2021年度の貿易総額は、非石油部門（石油・ガス製品は含む）の輸出総額が前年度比39.5%増の486億1,900万ドルだった。輸入総額も36.3%増の530億1,300万ドルとなり、輸出入ともに35%以上の増加となった。

貿易相手国上位5カ国をみると、輸出では前年度に引き続き2021年度も中国がトップで、前年度比57.9%増の143億2,300万ドルだった。中国以外の主要な輸出先はイラクやトルコなどの周辺国となっており、いずれも前年度比で増加しており、特にトルコ向けは、2.4倍と大幅な増加になっている。

輸入については、前年度1位だった中国に代わり、アラブ首長国連邦（UAE）が前年度比69.5%増の165億3,400万ドルで1位となった。2位の中国も29.5%増（127億4,400万ドル）となった他、各国とも増加している。ロシアは、前年度は6位（10億7,000万ドル）だったが、55.6%増（16億6,500万ドル）と伸び、インドを抜いて5位となった。

表1 イランの主要国別輸出入（非石油部門）（通関ベース）

（単位：100万ドル、%）

	輸出					輸入			
	2020年度		2021年度			2020年度		2021年度	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
中国	9,071	14,323	29.5	57.9	アラブ首長国連邦	9,754	16,534	31.2	69.5
イラク	7,431	8,916	18.3	20.0	中国	9,845	12,744	24.0	29.5
トルコ	2,534	6,087	12.5	140.2	トルコ	4,399	5,299	10.0	20.5
アラブ首長国連邦	4,567	4,929	10.1	7.9	ドイツ	1,851	1,924	3.6	3.9
アフガニスタン	2,296	1,839	3.8	△19.9	ロシア	1,070	1,665	3.1	55.6
日本（2021年度：64位）	17	14	0.0	△17.6	日本（2021年度：34位）	102	104	0.2	2.0
合計（その他含む）	34,861	48,619	100.0	39.5	合計（その他含む）	38,890	53,013	100.0	36.3

〔注〕①イランの会計年度は通常、3月21日ごろ～翌年3月20日ごろ。2020年度は2020年3月20日～2021年3月20日、2021年度は3月21日～2022年3月20日。

②輸出は非石油部門のみ（石油・ガス製品は含む）。③貿易条件は、輸出入ともにFOBとCFRが混在している。

〔出所〕イラン税関

貿易相手国上位国の品目別の内訳を相手国側からみると、輸出相手国1位の中国は、前年度同様、多様な品目をイランから輸入しているが、主要品目のうち、プラスチック・同製品、鉄鋼、銅・同製品、鉱石等は増加した一方で、有機化学品、鉱物性燃料が大幅に減少した。イランからの輸出額が前年度比で2倍以上となったトルコは、銅・同製品、アルミニウム・同製品、亜鉛・同製品などが伸びた。

輸入相手国1位のUAEからは、幅広い品目がイランに輸入されており、特に電気機器・同部品等が大幅に増加した。2位の中国からは、原子炉・ボイラー等、鉄道用車両・同部分品等が増加したが、電気機器・同部品等が減少した他、特に各種の化学工業生産品が大幅に減少した。

■低迷が続く日本との貿易

日本の「貿易統計（通関ベース）」によれば、米国による経済制裁により2019年に大幅に縮小した日本からイランへの輸出額は、2020年に前年比20.3%増と揺り戻しをみせたが、2021年には再び減少に転じ、12.4%減の7,016万ドルとなった。

日本からイランへの輸出を品目別にみると、一般機械が、主要品目の原動機が52.6%減となったことで全体として27.8%の減少となった他、前年は90.4%減だった原料別製品は、主要品目である金属製品(35.6%減)、ゴム製品(20.4%減)、紙類・紙製品(99.5%減)が軒並み減少したことで、44.2%減の92万ドルとさらに落ち込んだ。一方で、前年は58.3%減だった化学製品は、医薬品が前年の11万ドルから1,231万ドルへと100倍以上の伸びとなったことで、5.5倍(1,654万ドル)の大幅な増加となった。2020年に全減となった乗用車、バス・トラックについては、2021年は全増となったが、金額はそれぞれ8,000ドル、4万ドルにとどまり、輸送用機器全体では前年比56.4%減の40万ドルとなった。

表2 日本の対イラン主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:1,000ドル、%)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2020年		2021年			2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
食料品	6	0	0.0	全減	食料品	11,801	8,853	23.1	△ 25.0
原料品	6,097	419	0.6	△ 93.1	魚介類	802	282	0.7	△ 64.8
鉱物性燃料	0	14	0.0	全増	穀物類	0	3	0.0	全増
化学製品	2,986	16,539	23.6	453.9	野菜	64	62	0.2	△ 3.1
有機化合物	463	811	1.2	75.2	果実	5,232	6,606	17.3	26.3
医薬品	114	12,308	17.5	10,696.5	原料品	366	650	1.7	77.6
プラスチック	522	167	0.2	△ 68.0	鉱物性燃料	0	0	0.0	-
原料別製品	1,651	921	1.3	△ 44.2	化学製品	91	3	0.0	△ 96.7
金属製品	593	382	0.5	△ 35.6	有機化合物	38	0	0.0	全減
織物用糸・繊維製品	13	19	0.0	46.2	医薬品	17	0	0.0	全減
非金属鉱物製品	4	169	0.2	4,125.0	原料別製品	21,292	28,553	74.6	34.1
ゴム製品	437	348	0.5	△ 20.4	鉄鋼	0	0	0.0	-
紙類・紙製品	605	3	0.0	△ 99.5	非鉄金属	0	2	0.0	全増
一般機械	9,563	6,904	9.8	△ 27.8	金属製品	5	12	0.0	140.0
原動機	6,434	3,052	4.3	△ 52.6	織物用糸・繊維製品	21,276	28,525	74.5	34.1
電算機類(含周辺機器)	100	327	0.5	227.0	非金属鉱物製品	8	12	0.0	50.0
ポンプ・遠心分離機	794	483	0.7	△ 39.2	木製品等(除家具)	0	3	0.0	全増
荷役機械	335	361	0.5	7.8	一般機械	0	30	0.1	全増
加熱用・冷却用機器	6	92	0.1	1,433.3	電算機類の部分品	0	24	0.1	全増
繊維機械	494	350	0.5	△ 29.1	電気機器	57	56	0.1	△ 1.8
ベアリング	22	25	0.0	13.6	半導体等電子部品	0	3	0.0	全増
電気機器	26,856	15,861	22.6	△ 40.9	I C	0	3	0.0	全増
音響・映像機器	882	908	1.3	2.9	重電機器	0	2	0.0	全増
重電機器	72	83	0.1	15.3	通信機	9	4	0.0	△ 55.6
電気計測機器	1,815	2,116	3.0	16.6	電気計測機器	0	31	0.1	全増
電気回路等の機器	67	133	0.2	98.5	輸送用機器(自動車等)	0	0	0.0	-
電池	9	35	0.0	288.9	その他	120	118	0.3	△ 1.7
輸送用機器	927	404	0.6	△ 56.4	科学光学機器	21	0	0.0	全減
自動車	0	51	0.1	全増	衣類・同付属品	2	7	0.0	250.0
乗用車	0	8	0.0	全増	バッグ類	3	6	0.0	100.0
バス・トラック	0	43	0.1	全増	合計(その他含む)	33,726	38,263	100.0	13.5
自動車の部分品	877	308	0.4	△ 64.9					
二輪自動車	28	30	0.0	7.1					
その他	31,988	29,099	41.5	△ 9.0					
科学光学機器	4,434	7,035	10.0	58.7					
写真用・映画用材料	9,070	5,654	8.1	△ 37.7					
合計(その他含む)	80,074	70,161	100.0	△ 12.4					

[出所] 財務省「貿易統計(通関ベース)」をドル換算

一方で、2020年に前年比97.1%減と大幅に減少した日本のイランからの輸入は、2021年は13.5%増の3,826万ドルとなった。主に増加したのは構成比の74.6%を占める原料別製品で、太宗を占める織物用糸・繊維製品が伸びたことで、34.1%増の2,855万ドルとなった。一般機械は全増となったが、金額では3万ドルにとどまった。また、電気計測機器や半導体等電子部品も全増となったが、電気機器全体では1.8%減(6万ドル)だった。

進出日系企業は、米国の経済制裁による送金などの問題により、引き続き投資や現地でのビジネスが困難な状況にある。外務省「海外進出日系企業拠点数調査」によると、2021年10月1日時点でのイランの日系企業拠点数は25となり、前年同日時点の27から微減となっている。

主要経済指標

	2019年	2020年	2021年
①人口：8,498万人（2021年）			
②面積：164万8,195万km ²			
③1人当たりGDP：1万6,784米ドル（2021年）			
④実質GDP成長率（%）	△1.3	1.8	4.0
⑤消費者物価上昇率（%）	34.6	36.4	40.1
⑥失業率（%）	10.6	9.6	9.8
⑦貿易収支（100万米ドル）	7,155	3,234	15,844
⑧経常収支（100万米ドル）	3,754	△709	11,144
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	n.a.	n.a.	n.a.
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	9,031	9,142	8,675
⑪為替レート（1米ドルにつき、 イラン・リアル、期中平均）	42,000	42,000	42,000

〔注〕①③④⑥：2021年は推計値、⑦⑧⑩：イランの会計年度。2019年度は2019年3月21日～2020年3月19日、2020年度は2020年3月20日～2021年3月20日、2021年度は3月21日～2022年3月20日、⑪：公定レート。
〔出所〕①③④⑤⑥⑪：IMF、②イラン外務省、⑦⑧⑩：イラン中央銀行

（お問い合わせ先）

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp